

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和5年度 第2回丹波篠山市史編さん委員会、第3回通史編専門委員会

2 開催日時

令和6年3月10日（日曜日）午後1時40分から午後3時00分まで

*傍聴の受付時間（午後1時15分から午後1時35分まで）

3 開催場所

丹波篠山市立中央図書館 創作活動室

4 会議に出席した者の氏名（敬称略）

(1) 委 員 今井 進、奥村 弘、池田 正男、市沢 哲、大江 篤、
古市 晃、堀井 宏之

(2) 執行機関 小林 康弘、小畠 理三、成田 雅俊、植木 友

(3) そ の 他 松本 充弘

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

(1) 令和5年度事業の進捗状況等について 公開

(2) 令和5年度専門部会の進捗状況等について 公開

(3) 地域編シンポジウム開催結果等について 公開

(4) 専門部会間の調整・協議事項について 公開

(5) 令和6年度事業計画について 公開

(6) 原稿料の基準について 公開

(7) 委員の委嘱期間について 公開

7 非公開の理由

—

8 審議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

今井進 編さん委員会委員長あいさつ

奥村弘 通史編専門委員会委員長あいさつ

(3) 報告事項

ア 令和5年度事業の進捗状況等について

- ・事務局・松本特命助教より、令和5年度事業の進捗状況を報告。

(委員) 資料調査等の年度ごとの推移を記した表について、資料一点一点を確定していくのは整理が終わらなければ難しく、なかなか実数が出てこないと思うので、点数ではなく、資料群の群数の推移を表に追加してはどうか。その方が資料の収集・調査状況などが把握しやすい。

(事務局) 承知した。表に資料群数の欄を追加し、整理したい。

(委員) 収集資料群の個別一覧表だが、これは市内と市外とで分けて番号を付しているのか。

(事務局) 事務局が収集・調査・実見したものの一覧と、主に市外にあるもので事務局が資料の存在は把握しているが、実見・調査できていないものの一覧とに分けて作成している。

(委員) 承知した。

報告の中で「庭売」ということが出てきたが、これは近代に入ると農家庭先小売価格として統計資料上に出てくる。近代では本当に農家庭先小売価格なのかという議論になる。この用語は国語辞典には出てこないので、経済史関係の資料から調べてみるとよいと思う。

(オブザーバー) 承知した。

イ 令和5年度専門部会の進捗状況等について

- ・各部長から部会の進捗状況等を報告。

【考古編専門部会】池田部長から報告

- ・令和5年度は歴史資料編に関する検討を行い、主に主要遺跡の抽出作業に取り組んだ。
- ・第1回、第2回部会でと掲載遺跡選考基準を作成し、資料編に掲載する候補遺跡の選考を各委員に依頼した。
- ・第3回部会では、対象遺跡1,507件の内、まず83件を選出した。さらに平

成 20 年以降に県教委が発掘調査された遺跡からの選考、中世城館の研究者及び旧篠山町・旧今田町の元担当者からの意見をもとにした選考を次回部会で行うとなった。

- ・資料編構成の基本的事項の検討課題として、遺跡の掲載順、複合遺跡の掲載時代、遺跡名、1 頁あたりの文字数、目次・レイアウトなどをあげ、それぞれ検討した。
- ・第 4 回部会では、基本的事項の検討課題の内、遺跡の掲載順、複合遺跡の掲載時代、遺跡名についてはほぼ確定した。
- ・中世城館の研究者及び旧篠山町・旧今田町の元担当者から候補があがり、資料編に掲載する遺跡はほぼ確定したと考えている。対象遺跡 1,507 件中、現時点で 135 件を選出している。
- ・令和 6 年度は、掲載遺跡に係る執筆分担等の検討、執筆内容の検討、執筆に必要な遺物や報告書などの重要資料の所在確認などを計画している。

【古代編専門部会】古市部会長から報告

- ・今年度はこれまでに部会を 2 回、市外巡検を 2 回実施し、その他鳳鳴高校や青山歴史村に残されている旧青山家所蔵の典籍類の調査を行った。
- ・部会においては、主に資料編をどのようなものにしていくのかについて検討を重ねた。具体的な作業としては、神戸大学の院生に依頼し、史料目録を作成する作業を進めた。
- ・資料編については凡その方針が固まりつつある。古代史では多紀郡だけの史料になると少なく、多紀郡の状況もよくわからないということで、丹波国・丹後国の史料を採録していくという方針を立てて作業を進めた。現在その作業の目途が大方つきつつある。主に兵庫県史、新修亀岡市史、宮津市史から古代の凡そ院政期以前の史料を採録したところ、1,500 点ほどの史料があるということがわかってきた。今後それらの史料をどのように見ていくのか検討するのが来年度の課題になる。
- ・多紀郡内の巡検とともに、丹波・丹後の総体を考えるということで、年 2 回程度の市外巡検を進めている。今年度は 8 月に旧桑田郡、12 月に旧竹野郡、熊野郡の巡検を行い、古代の丹波・丹後の構成を検討した。
- ・3 月下旬に第 3 回部会を開催し、資料編の検討と現地巡検を予定している。

【中世編専門部会】市沢部会長から報告

- ・今年度は 3 回の部会を開催し、その他古代・近世部会合同で鳳鳴高校と青山歴史村の史料調査を行った。また 2 月下旬に図書館で所蔵している旧丹南町史編さん資料の調査も行った。

- ・今年度の成果としては、前年度から取り組んでいた県史の史料カードと一覧表を作る作業が一段落ついた。その中で大山荘について、特別に一覧表とカードを作らなくてはならないということで、その作業に重点を置いて取り組んだ。一覧表は完成し、現在神戸大の院生がカード化の作業を進めている。完成すれば、古代部会と資料を共有したいと考えている。
- ・現地の史料調査として、和田寺文書と歴史美術館所蔵史料の調査を行った。本格的な史料撮影は来年度以降を予定しているが、凡その史料の輪郭をつかむことができた。
- ・部会では巻構成の問題について議論を行った。大山荘は非常に史料点数が多く、またその他の中世史料も多く、これらをどのように収めていくかについて、概数を把握することも大事だが、現時点での感覚から巻構成をどのようにしていくのかについて、何度か部会で議論を行った。このことについては部会だけの議論で終わる話ではないで、来年度以降継続して、委員会でも議論を行うことになるかと思う。
- ・来年度の計画としては、これまで調査した史料の写真を撮影することを考えている。市内の中世史料については、現在の基準を満たし保存に耐えられるような写真を撮影しておきたい。
- ・フィールドワークとしては、これまで色々なところを見てきたが、来年度は曾地や後川、そして草山など、北、南の多紀郡外へと通じる地域の巡検を行えたらと考えている。また史料調査としては、個人所蔵の中世史料の現地調査と写真撮影を行いたいと考えている。
- ・資料編全体についていえば、先ほど古代部会では史料の概数が示されていたが、中世部会でも来年度前半には概数を出したいと考えている。ただし貴族の日記に関しては、検索がほとんど進んでいないので、これをどうにかして取り組み、概数が出せればと考えているものの、マンパワーが足りないので、そのあたりを工夫しながら取り組みたい。

【近世編専門部会】事務局から報告

- ・今年度は部会を2回開催、学生と市民ボランティアの参加を得て1泊2日の古文書調査合宿の開催、12月にその調査報告会を実施した。
- ・前回委員会以降の部会等での議論としては、次のような協議等を行った。
- ・通史編を念頭に置きながら史料調査を進め、歴史資料編の構成を考える。刊行順の変更は行わない。
- ・中世と近世の境としては中世部会から提案のあった「明智滅亡(天正10年)」とする。
- ・令和6年度の計画としては、藩政日記の調査を継続し、1泊2日だったも

のを2泊3日の合宿調査とし、スピードアップを図る。また可能であればもう1回合宿を追加したい。

- ・通史編編さんために、地理的な情報、既存自治体史・周辺自治体史、郷土誌などをテーマに勉強会を開催する。
- ・青山歴史村所蔵の藩政史料約3,200点について、全体の50%、藩政日記は100%を目途に調査に取り組みたい。
- ・藩政日記の調査に注力するが、通史編で書くことを念頭にそのほかの史料、大庄屋・心学・酒造・人の移動・婚姻圏・商売・寺院などの史料調査も行う。

【近現代編専門部会】奥村部会長から報告

- ・1月に部会を開催し、事務局が収集した主要な資料を実見し、全体の把握を行った。また市内東部を中心に巡検も行った。
- ・近現代の史料は非常に分厚く残っており、町や村も同様であり、全体でそれをどういう形で調査を行うかなどの議論を行った。
- ・令和6年度は4月に部会を行い、議論を深め、本格的に進めていく計画である。

【文化財編専門部会】事務局から報告

- ・前回委員会以降に部会を開催していないが、今年度は3回の部会を開催し、令和7年度 of 自然環境編との合冊による刊行に向けて準備を進めている。
- ・主に掲載項目の検討を進めているが、まだ執筆者の調整などできていない部分もあるので、来年度早急に詰めていきたいと考えている。

【自然環境編専門部会】事務局から報告

- ・掲載内容と執筆者は決定しており、現在執筆作業を進めている。
- ・令和6年度の秋ごろを第1回の原稿〆切に設定しており、令和7年度中の刊行に向けて準備を進めている。

(委員長) 各部会で関係する項目も多数ある。今後、各部会で議論を進めながら、必要に応じて他部会との情報交換や資料提供などをお願いしたい。

ウ 地域編シンポジウム開催結果等について

- ・事務局より地域編シンポジウム開催結果及び今後の計画等を報告。

(委員) シンポジウムでは、鳳鳴高校の高校生に是非ともということで登壇してもらった。彼らが町歩きの観光ガイドをしたときに良かったことや失敗した

ことなどを話してくれた。また彼ら若い人たちが今後残していきたい歴史遺産が何なのかということについて一言ずつ話してくれた。その中で八上城とデカンショ節を挙げてくれた。デカンショ節が市民のものになっていて、歴史や文化が色々と詰まっていて、毎年市民等から歌詞を募っているなど、これからもつないでいきたいという、大変良い話をしてくれた。キックオフとしてはすごく若い人の参加ができてよかったと思っている。また多くの方々に参加してもらえた良いキックオフであった。

来週には多紀と城東の方で部会がスタートするので、その中にこれから未来の丹波篠山を担ってくれるような10代、20代、30代の方々とも一緒に作っていけるような仕組みづくりが課題になってくるかと考えている。

(委員長) 当日、大変多くの方々に参加してもらえて、大きなインパクトを残すことができたと思う。

(4) 協議事項

ア 専門部会間の調整・協議事項について

(委員) 経典について、文化財編でどう取り扱うのか、また奥書部分について文字史料として中世部会で採っていくのがよいのか、文化財編の方に入れられるのかなどについて早急に協議をする必要があると考えている。今後調整の場などを設けてもらえればと思う。

(事務局) 文化財部会に伝達し、調整したい。

イ 令和6年度事業計画について

- ・事務局より事業計画について説明。

(質疑なし)

ウ 原稿料の基準について

- ・事務局より原稿料の基準について説明。

(委員長) 原稿料の基準について説明があったが、何か意見等があればお願いします。

(委員) 本の判型はB5判でよかったか。

(事務局) 新三木市史と同じB5判である。

(委員長) 他にないか。ないようなので、この基準で進めるということでよいか。

(異議を唱えるもの無し。)

(委員長) 異議がないので原案の基準で進めることにする。よろしくお願いします。

(5) 委員の委嘱期間について

- ・事務局より委員の委嘱期間について説明。

(委員長) 事務局から説明があったが、来年度の途中に各委員の任期が終わるが、引き続きよろしくお願ひしたい。

(6) 次回開催時期について

- ・ 令和6年7月21日に開催

(7) 閉会

堀井副市長 あいさつ